

Y3-01

新人看護師研修「多重課題」の研修プランと評価 ～前年度の課題を活かして～

前橋赤十字病院 看護部

○増田由美子、三枝 典子、福田 富江、鈴木まゆみ

当院では2007年よりキャリア開発ラダーを導入し、看護部とキャリア開発委員が連携し、看護師研修を企画・運営している。2008年から新人看護師研修制度を導入し、年間31の研修プログラムを4～6月に各部署をローテーションしながら受講している。その後は配属後受講する。2009年より「多重課題」研修を導入している。目的は、看護業務の中で発生する多重課題や時間的切迫な場面の中で、安全・的確に対処すること。目標は1)状況に応じた優先順位が選択できる。2)正確な看護ケアが提供できる。3)自己能力の限界を知り、先輩ナースに応援を求められることができる。4)患者に対し、適切な態度や言葉遣いができる。5)自己の行動を振り返ることができる、第47回日赤医学会で2010年度「多重課題」研修を発表。課題を検討し、2011年度はディスカッションを工夫し、アンケートは実践と学ぶ・理解に分け実施することとした。

【目的】前年度の課題を活かし、新人看護師研修「多重課題」の企画内容・方法の評価と目的・目標の達成度を評価する。

【方法】1.模擬設定した病室でビデオを設置し、研修生がシミュレーションを4分間実施、ビデオ鑑賞後、評価者と振り返り3分間実施する。グループディスカッションは評価者が入り、情報交換・共有する。2.研修生36名アンケート調査

【結果】1.シミュレーション、振り返りは予定通り実施。2.研修の企画内容・方法に対しては、98%が適当であったと回答。目標の達成度1)では実践で53%振り返り後100%が学ぶことができた。2)は実践では61%で、振り返り後76%理解できた。3)は実践で77%、振り返り後90%理解できた。4)は実践で89%、振り返り後95%理解できた。5)はビデオ・ディスカッション共に100%できたと回答。振り返ることで高値を示した。今後はOJTの活かし方を検討する。

Y3-02

新人看護師研修に多重課題研修を導入した教育効果

高松赤十字病院 看護部(教育担当係長会)

○長尾 佳代

【目的】病院独自の多重課題シミュレーションを通して新人看護師の1年間の成長を知り、新人看護師個々の成長に合わせた支援方法を知る。

【方法】対象者：新人看護師27人 調査期間：平成23年11月22日～24年2月22日各セクションの教育担当係長9人が自セクションの新人看護師の多重課題シミュレーションを観察し提出されたレポートを分析する。なお、研究利用の同意は得ている。

【結果・考察】1年間の集大成の研修として新人看護師に多重課題シミュレーションを実施している。研修を通して新人看護師は日頃、関わりのあった事例や患者を通して時間に追われながらも個々の患者に適した看護を提供していた。自分の看護の基礎知識や専門的能力を駆使して、懸命に持てる力を発揮したケア内容を示したのもだった。新人看護師は全員、入室時の挨拶や患者への言葉かけをしていた。また、患者の病状に合わせ、処置など優先順位を考慮したケア行動をとっていた。しかし、患者から早急な対応を迫られると基本的な手技や確認行動を怠る傾向があり、新人看護師自身も基本から逸脱したケア行為や技術の実施があったことを認めていた。今後の課題として新人看護師は経験が少ないために基本的な医療行為の実践や再確認を繰り返し行う。また、短時間で情報収集するには患者の基本情報や基礎疾患への知識が必要である。さらに、患者に安心感を提供するには看護技術の向上や医療知識の獲得が重要と感じていた。先輩看護師は個々の成長に合わせて、前向きに取り組めるよう安全で適切な環境整備と支援をする必要がある。

Y3-03

手術室新人看護師に対する多重課題シミュレーション 第1報

前橋赤十字病院 中央手術室

○岩崎恵美子、原田 悦子、星野 理恵、中村 雅輝、三枝 典子

A病院キャリア開発委員会では、2009年より新人看護師(以下新人)における多重課題研修をoff・J Tで実施している。研修の評価では自己の振り返りが客観的にでき、企画者は個人の成長度を把握する事ができた。しかし手術室新人も病棟設定での多重課題シミュレーション(以下SMT)を受けているため、より研修効果を高める為、手術室における多重課題SMTの企画が必要であると考へた。又、手術室での多重課題SMTを実施することで、新人の指導方法・指導内容に対する課題の明確化を目的とし手術室での多重課題SMTを企画したので報告する。

【目的】手術における日々の看護業務の中で発生する多重課題や時間的切迫な場面における課題に対して、安全な対処方法を学ぶ

【目標】1.現状を把握する 2.状況に応じた優先順位を選択しての行動 3.正確な看護技術の提供 4.自己能力の限界を知り、他スタッフへの応援要請 5.自己能力の発揮 6.自分の行動を振り返り今後の課題を明確にする、とした。

【方法】1.対象：新人4名 2.方法：対象1名に対し、状況設定オリエンテーション2分、SMT4分、ビデオ鑑賞での振り返り4分、口頭での振り返り3分行い最後に全員でディスカッション実施。全員が同じ状況下でのSMTになるよう状況設定は直前まで発表せず又、SMT待機時実施後の対象者と、実施前の対象者が同室にならないように配慮。状況設定は、「胸腔鏡下右肺切除中に肺動脈を損傷し出血。術者から器械や糸の要求から始まり、物品類の要求に続く。その後出血量やバイタルサイン確認、麻酔科医師から輸血請求、点滴準備、血液製剤請求と続く」とした。

Y3-04

手術室新人看護師に対する多重課題シミュレーション 第2報

前橋赤十字病院 中央手術室

○星野 理恵、岩崎恵美子、原田 悦子、中村 雅輝、三枝 典子

A病院手術室では2011年より、手術室新人看護師(以下新人)に対し多重課題のシミュレーション(以下SMT)の実施をOJTで導入した。SMT後新人と実地指導者にアンケートを実施し評価した。新人の目標は「1.現状を把握する 2.状況に応じた優先順位を選択しての行動 3.正確な看護技術の提供 4.自己能力の限界を知り他スタッフへの応援要請 5.自己能力の発揮 6.自分の行動を振り返り、今後の課題を明確にする」とし、実地指導者の目標は「1.新人の多重課題への対処の現状を把握する 2.ディスカッションで新人の考えを引き出す 3.新人の行動やディスカッション内容を振り返り、指導方法・内容を明確にする」とした。結果、新人はSMTにより自己能力の限界を知る事ができ、実地指導者は成長度を把握でき今後の指導方法・内容に対する課題の明確化を図れた。

【目的】多重課題の企画内容・目的・目標の達成度の評価

【対象】新人4名 実地指導者5名

【方法】SMT実施後、対象者に対し到達度調査票での評価を実施

【結果】到達度調査票は4段階評価とし集計。新人の回答は企画の内容・方法に対し、75%が適当と回答。目標1・4・6の達成度は高く(平均3.5以上)目標2・3の達成度については低い(平均2以下)という結果であった。実施指導者の回答は、企画の内容・方法に対し100%が適当と回答。全目標に対し、達成度は高く(平均3.2以上)、SMT後のディスカッションを通し新人の現状・成長把握・今後の指導方法の明確化になったとの回答が得られ、今後の課題としてディスカッションの進め方、多重課題の継続があがった。